

令和7年度 田原西小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

- ◎基本目標・・・社会の変化に対応しながら、生涯にわたって成長し続けることができるよう、知・徳・体の調和がとれ、想像力と実践力に富んだ、たくましく心豊かな児童を育成する。
- ◎具体目標
- めざす児童像
 - ・健康で明るい子
 - ・思いやりのある子
 - ・自ら考える子
 - ・がんばりぬく子
 - 児童スローガン 『育もう！田西っ子プライド「思いやる心・気づく心・がんばりぬく心」』
- 「健康で明るい子」を児童の基盤としてめざすとともに、本校の伝統を背負って立つ田西っ子プライド「思いやる心・気づく心・がんばりぬく心」を磨いていく。

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

- 「元気なあいさつが響き、教師も児童も生き生きと学び合う学校づくり」
- 《目指す学校づくりの3つの視点》
- ◇日々の生活にあいさつが響き、明るく活気のある学校
 - ◇子ども一人一人が生き生きとし、学び合える学校
 - ◇楽しく安心して生活ができ、保護者・地域住民から信頼される学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 「第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画」の理念や趣旨をふまえ、明るく活気にあふれる教育活動を実践し、好ましい校風づくりに努める。
- (2) 心豊かに、他者と協働しながら多様な価値観を尊重し、創造的かつたくましく生きていくことを目指し子ども一人一人が未来の創り手となれるよう必要な資質や能力、学力の向上に努める。
- (3) 健康で安全な生活が送れるよう、社会的規範や基本的な生活習慣を身に付け、自らを律していける能力の育成と体力の向上に努める。
- (4) 主体的・対話的で深い学びを目指し授業実践、教育的愛情と信頼が育まれた学級経営、創意と工夫による教育活動を推進する。
- (5) 施設・設備の効果的な活用に努め、学習に効果的な環境のより一層の充実を図るとともに、危機管理を徹底し、安心・安全な学校をめざす。
- (6) ワークライフバランスを意識した適正な勤務時間をめざし、子どもと向き合う時間を十分に確保できるように業務を推進する。

【田原地域学校園教育ビジョン】

自立を目指しながら積極的に地域社会と関わる田原っ子の育成

4 教育課程編成の方針

- (1) 教育目標の具現化を図り、社会に開かれた教育課程の実現のため、本校の実態（施設・設備・職員構成・地域環境）、児童の発達段階や特性、地域社会や保護者の願い等を十分に把握し、知・徳・体の調和の取れた生きる力を育む教育課程を編成する。
- (2) 学習指導要領の原則を踏まえ、学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等）の育成のため教科横断的な視点に立って、カリキュラム・マネジメントを進め、学習の効果を高めていく。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校運営

- ア 『育もう！田西っ子プライド「思いやる心・気づく心・がんばりぬく心」』を合言葉に，活気ある学校づくりの推進
- イ 地域との連携・協働を図った教育課程の編成・実施・評価・改善
- ウ 業務の重点化・効率化等による，教職員の勤務時間の適正化の推進

(2) 学習指導

- ア 基礎基本の確実な習得と主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
- イ 児童が自身の考えを表出する力を育む教科等横断的な指導の充実

(3) 児童生徒指導

- ア 確かな児童理解に基づく一人一人の自尊感情を高める学級経営の充実
- イ 基本的生活習慣の育成といじめ・不登校を生まない指導の充実
- ウ 明るくあいさつや正しい言葉遣いができ，思いやりの心をもって行動できる児童の育成

(4) 健康（保健安全・食育）・体力

- ア 運動の習慣化と体力向上 ～体育の時間における補強運動の充実～
- イ 健康課題を改善するための生活習慣の育成
- ウ 丈夫な体をつくるための望ましい食習慣の育成
- エ 自分で考え安全に行動できる児童の育成

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通, 地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には, A拡充 B継続 C縮小・廃止, を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は, 文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1- (1) 確かな学力を育む教育の推進	<p>A 1 児童は, 他者と協力したり, 必要な情報を集めたりして考えるなど, 主体的に学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は, 学習課題を解決するために, 友達と話し合ったり, 必要な情報を集めたりしながら, じっくり考え, 進んで学習に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒教職員 80%以上</p>	<p>① 「宇都宮モデル」を活用して分かる授業を展開し, 児童が学ぶ楽しさや分かる喜びを味わうことのできる学習活動の実施に努める。</p> <p>② 「田西っ子スタンダード」を基盤として学習の約束を徹底するとともに, 対話的な学習のもとになるペアやグループによる学び方を指導し, コミュニケーション力を育てる。</p> <p>③ 思いを言語化するための学びの土台作りのために, 朝のことばタイムや1分間スピーチの時間を設定し, 話し方・聞き方の指導を継続的に行っていく。また, 様々な学習場面で話し合いや書く活動を設定し, 目的と相手意識を明確にした言語活動を行うことで, 相手に伝わる表現力の向上を図る。</p> <p>④ 主体的・対話的で深い学びの実現に向け, 教職員が教材研究を行うことで, 児童が主体的に学習に取り組めるような仕掛けを作り, 授業の充実を図る。</p>	B	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答が 86.2%, 教職員の肯定的解答が 88.9%であり, 十分に目標値に達している。</p> <p>【次年度の方針】 学習の見直しをもって取り組めるようにするため, 教材研究を充実させたり, 「田原西小授業のスタンダード」を活用したり, やることを児童が明確にわかるようにする。</p>
1- (2) 豊かな心を育む教育の推進	<p>A 2 児童は, 思いやりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は, 誰に対しても, 思いやりの心をもって優しく接している。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① 道徳科の授業において, 生命や人権を尊重する心や, 人を思いやる心などを涵養する。</p> <p>② 人権教育年間指導計画に基づき, 全教育活動を通して人権教育を計画的に実施する。</p> <p>③ 児童会活動や各委員会におけるファミリー班活動(異学年交流の時間)・給食・清掃における縦割り班活動を通して, 異学年間の交流を活性化し, 相手を思いやる心を育む。</p>	B	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答が 83.4%で教職員の肯定的回答が 88.9%と児童の肯定的回答の割合が目標値に達していない。</p> <p>【次年度の方針】 行動や言葉遣いについて全職員が共通理解を図り, 指導の充実を図ったことで, 児童の意識が高まっている。異学年交流の機会を意図的に設け, 思いやりの心が現れた際に教職員が認め励ます声掛けをしていく。</p>
	<p>A 3 児童は, 目標に向かってあきらめずに, 粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 「私は, 目標に向かって, あきらめずに, 粘り強く取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① 児童の自己肯定感を高められるよう, 児童の能力や取組を児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに, 担任も認め励ます指導に努める。</p> <p>② 各教科の授業や各行事等において, 児童が目標をもって取り組む機会を設けるとともに, 目標の達成に向けて努力している児童を称賛する。</p> <p>③ 清掃活動を中心として, 粘り強く取り組むことの大切さに気付かせるとともに, 実践に向けた意欲を高める。</p> <p>④ 各教科や学級活動のキャリア教育を通して夢や目標をもつことの大切さを実感できるように指導していく。</p>	B	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答が 86.2%で教職員の肯定的回答が 94.4%とどちらも目標値に達している。</p> <p>【次年度の方針】 児童が達成可能な目標をもって取り組む機会を設けるとともに, 児童の能力や取組を児童相互に認め合う場を作り, 担任も認め励ます指導に努めたことが良好な変化に繋がったと考えられるため, 継続して取り組んでいく。</p>

<p>1- (3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進</p>	<p>A4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒保護者 85%以上</p>	<p>① 児童が自分の健康に気を付けて自ら健康を管理できるよう、学級活動、体育、学校行事と関連を図った保健指導や日常生活指導を行う。 ② 養護教諭や栄養士と連携した授業を取り入れ、食育や保健指導を充実させ、栄養バランスのとれた食事や望ましい食習慣の形成を図る。 ③ 危機を予測し自らの命を守り抜く行動力を育成するため、日常指導における安全指導を充実するとともに、交通安全教室、避難訓練等を計画的に実施する。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答が 89.0%で教職員の肯定的回答が 100%とどちらも目標値に達している。 【次年度の方針】 委員会活動を通して児童に呼び掛ける活動を行ったことにより、児童が自分の健康や安全に気を付けて、健康で安全な生活習慣を形成できるようになったと考えられる。次年度も委員会活動の取組を継続し、児童に呼び掛けていく。</p>
<p>1- (4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進</p>	<p>A5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、自分のよさや考えを生かしたり、周りや協力し合ったりして、進んで生活をよりよくしようとしている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① 「今の自分」、「ありのままの自分」を価値あるものとして捉えられるように、積極的に一人一人のよさを認め、励ましていくことで自尊感情を育む。 ② 「田西っ子スタンダード」の徹底により規範意識の醸成を図るとともに、あいさつや正しい言葉遣いについて繰り返し指導をすることで、児童相互がよりよいコミュニケーションをとれるよう促す。 ③ ハッピータイム（共遊の時間）やファミリー班活動（異学年交流の時間）を設け、児童相互および教師と児童の交流を図り、よりよい人間関係を構築する場の充実を通して、他を思いやる気持ちを育む。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答が、82.1%、教職員が 83.3%であり、どちらも目標値を下回っている。教職員は昨年度に比べるとやや改善傾向が見られるが、児童については昨年度よりもやや低下した。 【次年度の方針】 今後も、ハッピータイムやファミリー班活動を継続して実施するとともに、道徳や人権週間などにおいて自分のよいところを意識できる活動を取り入れる。</p>
<p>2- (1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進</p>	<p>A6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、英語の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒教職員 80%以上</p>	<p>① 授業中に限らず、休み時間や給食、清掃など、児童がALTと英語でやり取りする場の設定に努める。 ② 児童の実態に応じて、ゲームや歌などを取り入れ、興味関心を高める。 ③ 活動における到達の姿を明らかにし、振り返りを位置づけることで、児童に自分の姿を見つめさせ、実践に向けた意欲向上を図る。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答が 77.2%であり、目標値には達していないが、昨年度より約 6.6ポイント上昇した。教職員の肯定的解答は 94.4%であり、目標値を上回っている。 【次年度の方針】 ・今後も児童の実態に応じて授業の中にゲームや歌などの活動を取り入れる。</p>
	<p>A7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、宇都宮の良さを知っている。」 における肯定的回答 ⇒児童 80%以上</p>	<p>① 生活科、社会科、総合的な学習の時間の授業や、市内や地域での校外学習等において、学習内容に関連させながら児童が身近な地域や宇都宮市の良さに気付く指導に努める。 ② 教師自身が宇都宮市の歴史、文化、伝統産業、特産物等について理解を深められるよう努める。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答が 86.2%であり、目標値を上回っている。 【次年度の方針】 授業中で宇都宮について学ぶ際に、知っているよさを互いに出し合うことで、児童自身が宇都宮のよさに気付くことができるようにする。</p>

<p>2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進</p>	<p>A8 児童は、デジタル機器 や図書等を学習に活用し ている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、パソコンや図書等 を学習に活用している。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① 授業の中で効果的に1人1台端末等を活用 する時間を設け、デジタル機器を適切に活 用することができる能力の育成に努める。 ② 各学年のその時期の授業内容との関連に 配慮した教育図書の整備充実等、学校図書 館の環境整備に努める。 ③ デジタルシティ体験を活用するなどして、 児童が先端技術に触れることができる機 会を設定する。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は78.6%、教 職員の肯定的回答が100%であり、 児童の目標値が下回っている。 【次年度の方針】 それぞれの学年の発達段階に応 じて、図書資料やデジタル機器を 活用した学習を積極的に取り入れ る。</p>
<p>2- (3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進</p>	<p>A9 児童は、「持続可能な社 会」について、関心をも っている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、「持続可能な社会」 について、関心をもってい る。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① 総合的な学習の時間における環境教育等 を通して、環境問題への関心を高め、環境 と調和しながら生きる意識や態度を育成 する。 ② 道徳教育年間指導計画に基づき、全教育活 動を通して道徳教育を計画的に実施する。 ③ 教職員が、環境問題や人権教育等につい ての研修を実施し、持続可能な社会づくりに ついて学んだり考えを深めたりしたこと を指導に生かすとともに、児童への意識付 けを図る。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は82.8%、教 職員の肯定的回答は77.8%であ り、いずれも目標値を下回ってい る。 【次年度の方針】。 牛乳パック回収やこまめな消灯 など身近な取組が持続可能な社会 につながることを周知していく。</p>
<p>3- (1) インクルー シブ教育シ ステムの充 実に向けた 特別支援教 育の推進</p>	<p>A10 教職員は、特別な支援 を必要とする児童の実態 に応じて、適切な支援を している。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必 要とする児童（生徒）の実態 に応じて、適切な支援をして いる。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① 特別支援教育コーディネーターや児童指導主任 を中心に、全校で特別な支援が必要な児童に関 する共通理解を図り、一人一人のニーズを踏 まえた支援を組織的に行う。 ② 特別支援学級の児童はもとより、通常学級 においても、必要に応じてケース会議等を 開き支援方法について話し合い、それに基づ く合理的な配慮を伴う指導に努める。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答が100%で、 目標値に達している。 【次年度の方針】 今後も、特別な支援が必要な児 童について、学校全体で共通理解 を図り、特別支援コーディネーター や児童指導主任を中心に、教職 員が協力して合理的な配慮を行う ようにする。</p>
<p>3- (2) いじめ・不 登校対策の 充実</p>	<p>A11 教職員は、いじめが許 されない行為であることを 指導している。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、いじめが許され ないことを熱心に指導してく れる。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒保護者 85%以上</p>	<p>① 学級活動、道徳科の授業等を通して、人を 思いやることや人権を尊重することの大 切さを指導するとともに、日常生活の中 でいじめが許されない行為であることを繰 り返し指導する。 ② 児童会が主体となり、児童が自ら「いじめゼロ運 動」を推進できるよう支援し、望ましい児童集団 の育成に努める。 ③ 定期的なアンケートや教育相談等を通して児童 の心の状態を共感的に理解した上で、学校い じめ防止基本方針に基づき、組織的な対応により いじめの早期発見、早期解消を図る。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答が95.2%、保 護者の肯定的回答が68.6%であ り、保護者の目標値が下回ってい る。 【次年度の方針】 今後も、児童への定期的なアン ケートや教育相談を実施するとと もに、学校での取組について学年 だよりや学校ホームページを通 して発信していく。</p>

	<p>A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒保護者 85%以上</p>	<p>① 児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任も認め励ます指導に努める。</p> <p>② 教育相談、アンケート、Q-U調査等の結果を活用し不応傾向のある児童の早期発見と不登校の兆候や傾向の児童に係る校内全体の情報共有を図る。</p> <p>③ 必要に応じて関係職員でのケース会議を開き、不応傾向がある児童や不登校の兆候が見られる児童の早期発見と不登校の未然防止、早期対応に努める。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答が 90.3%、保護者の肯定的回答が 85.5%で、目標値に達している。</p> <p>【次年度の方針】 今後も、学校生活全般において児童を認め、励ます場を設けるとともに、教職員一人一人が児童への声掛けを意識して行っていく。</p>
<p>3-(3) 外国人児童生徒等への 適応支援の 充実</p> <p>3-(4) 多様な教育的ニーズへの 対応の強化</p>	<p>A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るいきいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、困ったときに相談に乗ってくれたり、問題を解決しようとしていたりして、私たちが楽しく学校生活を送れるようにしている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒保護者 85%以上</p>	<p>① 一人一人の児童が自分のもてるよさや可能性を発揮できるように、様々な集団活動の場を設定し、児童の主体的な活動を重視する。</p> <p>② 学級活動や児童会活動、縦割り班活動等を通して、児童が自他を尊重しながら活動する意識の醸成を図るとともに、児童にとって居がいのある望ましい集団づくりを行う。</p> <p>③ 授業や様々な活動を通して、教職員が児童のよさや努力を認め励ます支援や指導を行う。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答が 90.3%、教職員の肯定的回答が 100%で目標値に達しているが、保護者の肯定的回答が 79.6%で目標値に達していない。</p> <p>【次年度の方針】 児童にとって居がいのある望ましい集団づくりを引き続き行っていくとともに、その取組の様子を各種便りや学校 HP で周知していく。</p>
<p>4-(1) 教職員の資質・能力の 向上</p>	<p>A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上</p>	<p>① 各教科において、「田西っ子スタンダード」を基盤として学習の約束を徹底したうえで、基礎基本の定着を図る。</p> <p>② 「田原西小授業のスタンダード」を活用して分かる授業を展開し、学ぶ楽しさや分かる喜びを味わうことのできる学習活動を重視する。</p> <p>③ 算数科におけるTT、少人数、習熟度別等の学習形態を工夫し、分かる授業を展開する。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は 93.1%であり、目標値を上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 教職員による金曜ミニ講座や、学力向上コードイーター研修等、今後も取組を継続する。</p>
<p>4-(2) チーム力の 向上</p>	<p>A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校に関わる教職員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒教職員 90%以上</p>	<p>① 「チーム田西」の合言葉のもと、学校の諸課題への対応や、学校行事の準備・運営等に、教職員の協働性を高めることに視点を置いて組織運営に努めるとともに、困難を感じる業務について気軽に相談し、助け合える雰囲気大切に合う。</p> <p>② 授業を通して、効果的な言葉掛けや板書の工夫について教職員相互に伝え合うことで、学校全体の指導力の向上を図っていく。また、授業の成果や課題について相互に認め合い、理解し合う機会を繰り返し設けていく。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答が 100%であり、目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 日常の一人一人の授業の成果を教職員に伝え合うことで、引き続き学校全体の指導力の向上を図っていく。また、授業後、成果や課題について相互に認め合い、理解し合う機会を繰り返し設けていく。学校の諸課題への対応や、学校行事の準備・運営等に、全教職員が相互に声をかけ合い協働することで組織運営に努める。</p>

<p>4- (3) 学校における働き方改革の推進</p>	<p>A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① 学校の働き方改革の視点に立って教職員一人一人が、勤務時間を意識し、業務の効率的な実施や計画的な処理に努める。 ② 教職員の負担軽減に向け、学校の組織運営の改善や、各種行事等の実施方法の振り返りや改善が次時に有効に生かせるような工夫をしていく。 ③ 学習情報システムやさくら連絡網をはじめとした各種システムを効果的に活用したり、学級支援事務担当の協力を得たりすることで業務を効率的に進め、超過勤務時間の削減に努める。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答が100%であり、目標値を上回った。 【次年度の方針】 引き続き、各種システムを有効活用して業務の効率化を図っていくとともに、時間を意識して業務の効率的な実施や計画的な処理に努める。また、各種行事等の実施方法の改善を継続的に行う。</p>
<p>5- (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実</p>	<p>A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、児童生徒や教職員の交流、小中一貫教育カリキュラムの作成・見直しなど、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 90%以上 ⇒保護者 85%以上</p>	<p>① 田原地域学校園ビジョンに基づいた「田原地域学校園年間指導計画」の下、自ら進んで何事にも取り組むことを重点として、小中一貫教育・地域学校園を推進する。 ② 田原中と連携し小中合同の「あいさつ運動」や6年生の進学先中学校訪問、中学2年生の宮っ子チャレンジなどの取組について、各種たよりや校内掲示、HPなど様々な機会を捉えて積極的に発信し、理解を深める。 ③ 地域学校園事務室や、学校一人配置職員の分科会を通して連携を図り、学校園内の相互支援体制を充実する。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答が100%、保護者の肯定的回答も88.0%であり、ともに目標を上回った。 【次年度の方針】 6年生の中学校訪問やあいさつ運動、宮っ子チャレンジ、陸上競技大会プレ大会など交流を主とする取組を実施し、HPや学年だよりなどで小中一貫教育・地域学校園との関わりを積極的に発信していく。また、田原地域学校園ビジョンに基づき、各分科会における交流活動の充実をさらに図り、互いの理解を深める。</p>
<p>5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進</p>	<p>A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 における肯定的回答 ⇒保護者 80%以上 ⇒地域住民 85%以上</p>	<p>① 田原西小学校地域協議会を定期的に開催し、学校経営方針への保護者、地域住民の意見反映や、学校関係者評価の実施などを行っている。 ② 登下校や校外での体験活動時の安全確保や、授業への支援などにおいて学校支援ボランティアを有効に活用し、家庭や地域と連携して教育活動の充実を図る。 ③ 家庭や地域社会から得られる情報を教育資料として学習活動に反映させ、児童が将来の夢や希望を描いたり、実現に向けて努力したりする態度を育成する。</p>	<p>【達成状況】 保護者の肯定的回答は86.8%、地域住民の肯定的回答は100%で、ともに目標値を上回った。 【次年度の方針】 地域協議会を年4回開催し、多角的・多面的視野で意見を交換することで、学校経営方針に反映させていく。家庭や地域社会との連携による体験的活動を工夫し、地域の教育力をボランティアとして有効に活用し、学校だよりやHPを通して発信する。オンラインなどのICTを活用した工場見学や講座を受講した体験を積極的に取り入れ、キャリア形成に役立てられるような授業展開に努める。</p>
<p>6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進</p>	<p>A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 90%以上 ⇒保護者 85%以上</p>	<p>① 毎月、各教室、特別教室、廊下、体育館校庭等学校内施設・設備について、チェック項目に基づく安全点検を実施し、危険箇所については迅速な改善や修繕に努める。 ② 危機管理マニュアルを整備するとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にする。 ③ 熱中症対策、感染症予防対策など、学校全体で時期に応じた保健指導管理に努める。</p>	<p>【達成状況】 教職員100%保護者93.0% 【次年度の方針】 今後も継続して避難訓練などの安全に関する取組の様子を、学校だよりや学年だより、学校ホームページ等で発信していく。また、引き続き学校内施設・設備について、チェック項目に基づく安全点検を実施し、危険箇所については迅速な改善や修繕に努める。</p>

<p>6-(2) 学校のデジ タル化推進</p>	<p>A20 コンピュータなどのデ ジタル機器やネットワ ークの点から、授業（授業 準備も含む）を行うため の準備ができている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、授業（授業準備を含 む）や業務に、デジタル※を 積極的に活用している。 ※デジタル…一人一台端末、 ミライム、スズキ校務、さく ら連絡網など」 ⇒教職員 90%以上</p>	<p>① 1人1台端末を効果的に活用する授業づ くりについて校内研修や実践例の情報共 有を行う。 ② デジタルを活用した授業や校務の効率化 についての研修を、ICT支援員の協力 により実施する。 ③ 児童がコンピューターや情報通信ネット ワークなどの情報手段に親しみ、適切に 活用する能力を育成できるよう、授業に おいて積極的にデジタル機器を活用す る。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は 94.4%で あり、目標値を上回っている。 【次年度の方針】 今後も授業において積極的にデ ジタル機器を活用し、校内研修等 で実践例の共有を図る。</p>
<p>小・中学 校、地域 学校共 通、本校 の特色・ 課題等</p>	<p>B1 児童は、時と場に応じ たあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、時と場に応じたあ いさつをしている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒保護者 85%以上 ⇒地域住民 85%以上</p>	<p>① P T A や地域と連携を図ったあいさつ運 動を推進し、自然にあいさつができる学校 を目指す。 ② 家庭や地域でも時と場に応じたあいさつ ができるよう、保護者の意識を高めたり、 協力を得たりできるような啓発の仕方を 工夫する。 ③ 学級活動において、「場に応じたあいさつ」 について話し合い活動を行い、あいさつを進 んで行う態度の育成を目指す。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答が 86.9%、保 護者の肯定的回答が 80.3%、地域 住民の肯定的回答が 100%で、保護 者の目標値が下回った。 【次年度の方針】 日常生活におけるあいさつにつ いて、道徳や学級活動などに取り 扱い、時と場に応じたあいさつが できるよう意識付けを行ってい く。</p>
<p>小・中学 校、地域 学校共 通、本校 の特色・ 課題等</p>	<p>B2 児童は、きまりやマ ナーを守って、生活 をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、きまりやマナーを 守って生活している。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上 ⇒保護者 85%以上</p>	<p>① 各学級で「田西っ子スタンダード」の意 識化と徹底を図り、規範意識を醸成す る。 ② 廊下の歩行、チャイム着席を含む時間の 厳守を重点課題とし、秩序と安全の大切 さについて、根気強く継続的に指導す る。 ③ きまりやマナーを守って行動しているこ とを、児童会活動等で児童が相互に認め 合う場や教師が称賛する機会を設け、教 師を中心に規範意識の醸成を図る。 ④ 月1回生活目標の達成状況の確認を行 い、今後の方針の確認を行い、同一歩調 で指導する。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答が 83.3%、 保護者の肯定的回答が 88.5%で あり、教職員の目標値が下回った。 【次年度の方針】 今後も、朝会や放送を利用して 担当教諭が月1回程度生活目標に ついて話をするを通して、生 活目標を意識付けるとともに、教 職員で達成状況や今後の方針につ いて情報共有を図る。</p>
<p>小・中学 校、地域 学校共 通、本校 の特色・ 課題等</p>	<p>B3 児童は、毎日家庭学習 に取り組んでいる。 【数値指標】 学校独自アンケート 「児童は、毎日家庭学習に取 り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒保護者 80%以上</p>	<p>① 年度当初に保護者向け「家庭学習のすす め」や児童向け「自主学習メニュー」を 配付し、家庭学習に積極的に取り組める ように支援する。 ② 家庭学習の内容から児童のよさや努力し ていることなどを紹介し、称賛したり伝え 合ったりすることにより、成果を認め励ま す機会の充実を図る。 ③ 家庭学習強化週間を設けて保護者に呼び 掛け、学校と保護者が協力し合って定着を 図る。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は 66.2%、保 護者の肯定的回答は 66.1%で あり、目標値を下回っている。 【次年度の方針】 決められた宿題を確実にを行うこ とが家庭学習の基本であることを 継続指導し、宿題の提出を呼び掛 ける。</p>

<p>B4 児童は、本を読むことが好きである。</p> <p>【数値指標】 学校独自アンケート 「児童は、本を学習に活用したり、進んで読書したりしている。」 における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒保護者 80%以上</p>	<p>① 図書室の活用はもちろん、月1回の朝の読み聞かせ・朝の読書や外部人材の活用を通して、読書指導や言語環境の充実を図る。</p> <p>② 校内読書週間を設けて、児童に図書室利用を啓発するとともに、図書委員会による様々な取組を行う。</p> <p>③ 児童の意欲を高めるよう学習センター、読書センター、情報センターとしての機能を充実させる図書室の整備を行う。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答が75.2%、保護者の肯定的回答が45.2%で、どちらも目標値を下回っている。</p> <p>【次年度の方針】 学校司書を活用し、今後も様々な種類の本に触れられるよう定期的に読み聞かせやブックトークを実施するとともに、家読の啓発を行う。</p>
<p>B5 児童は、体育の授業や休み時間に進んで運動している。</p> <p>【数値指標】 学校独自アンケート 「児童は、体育の授業や休み時間に進んで運動している。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒保護者 85%以上</p>	<p>① 各学級で休み時間の外遊び、さらに冬季の外遊びを奨励し、児童の意識を喚起する。</p> <p>② 体育的イベントを企画・実施し、運動の楽しさを体験させる。</p> <p>③ 縦割り班でのなわとび週間の実施により、児童各自の目標達成に向けた意欲高揚と体力向上を図る。</p> <p>④ 各クラスによる共遊(ハッピータイム)だけでなく、縦割り班での共遊の時間も設けて楽しく運動する時間を増やす。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答が83.4%で保護者の肯定的回答が84.4%とどちらも目標値に達していない。</p> <p>【次年度の方針】 今後も共遊の時間や全校運動など児童が楽しんで運動する機会を設け、運動する習慣の定着や運動意欲の向上を図っていく。</p>
<p>B6 児童は、「田西っ子プライド」を意識して行動し、田西小の一員であるという自覚をもって生活している。</p> <p>【数値指標】 学校独自アンケート 「児童は、「田西っ子プライド」を意識して、「気づく心・思いやりの心・がんばりぬく心」を発揮して生活しています。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① 「田西っ子プライド」の具体的な姿を分かりやすく示すとともに、粘り強くやり抜くことを意識して生活できるよう、向上心や自尊心の醸成を図る。</p> <p>② 清掃や縦割り班活動を通して、「気づく心・思いやりの心・がんばりぬく心」を意識した声掛けを行ったり、称賛したりすることで、3つの心を育む。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は86.9%、教職員の肯定的回答は94.4%で、ともに目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 行事等の計画段階において「田西っ子プライド」の位置づけを行い、教職員が育成すべき力が明確になるようにする。また、日常的に児童が「田西っ子プライド」を意識して生活できるよう、教職員が声掛けを行ったり、称賛したりする。</p>

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

評価項目 A1 「児童生徒は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。」において、保護者の評価が R6 年度の 78.0%から 83.3%と 5 ポイント以上上昇した。同評価項目は児童生徒においても、85.3%から 86.2%へ上昇している。このことは、教員が、学習の見通しをもって取り組めるようにするため、教材研究を充実させたり、「田原西小授業のスタンダード」を活用したり、児童がやることを明確にわかるように工夫してきた成果と言える。また、家庭学習強化週間の取組を始めとして、児童が家庭でも自ら取り組む姿勢を見せている結果が保護者の評価につながったと言える。

評価項目 A3 の「児童生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」では、教職員の評価が 58.8%から 94.4%、児童の評価も 83.8%から 86.2%へと上がっている。このことから教職員の日々の研究の成果を生かした授業の改善の効果が表れていると言える。また、評価項目 A6 の「児童生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。」の児童の自己評価が 70.6%から 77.2%へと、6.6 ポイントの上昇が見られ、授業内容が充実し、英語に対する心理的ハードルが下がった成果と言

える。

評価項目 B6「児童は、『田西っ子プライド』を意識して、『気づく心・思いやりの心・がんばりぬく心』を発揮して生活している。」の保護者による評価が、73.2%から87.3%へと14.1ポイント上がっている。児童の数値は88.2%から86.9%へとやや減っているものの、保護者の視点からは、学校が掲げる教育方針が子供の行動として可視化され、評価された成果と言える。

評価項目 A8「児童生徒は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。」の児童の数値が87.5%から78.6%へと、8.9ポイント下がっている一方、教職員の評価は100%である。教職員の評価と児童の評価の間に20ポイント以上の乖離が生じている。教職員は「活用できている」と捉えていても、子供自身は「十分に使いこなせていない」と感じており、今後は児童の主観的な満足度を高める支援を行っていく。それぞれの学年の発達の段階に応じて、図書資料やデジタル機器を活用した学習を積極的に取り入れ、一人一台端末の更なる活用を図っていく。

評価項目 A4「児童生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。」の児童の評価が94.1%から89.0%へ、また、B2「児童生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」が87.5%から85.5%へと下がっている。保護者の評価も B2 は93.3%から88.5%へと下がっており、児童の集団生活における規律や安全に対する意識が、前年度よりもやや希薄になっていると言える。今後も、朝会や放送を利用して担当教諭が月1回程度生活目標について話をするを通して、生活目標の意識付けを図るとともに、教職員で達成状況や今後の方針について情報共有を図り、児童や保護者の意識を高めていきたい。

評価項目 B1「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」の「あいさつ」に関する肯定的回答率は、地域を除き児童生徒・教職員・保護者ともに昨年度を下回っている。校内の児童の様子を見てもあいさつの習慣が身に付いてきているのは一部の児童であり、登下校時の様子からも十分とは言えない。今後も地域や家庭と連携を取りながら、児童が誰に対しても気持ちのよいあいさつができるよう指導を継続していきたい。

7 学校関係者評価

地域住民による評価は、多くの項目で「100.0%」という極めて高い肯定的回答割合に達している。特に A11 の「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。」の評価項目では R6 の71.4%から R7 では100.0%へと、約30ポイント近く上昇している。いじめゼロ集会の様子をはじめとして学校の取組の様子を HP や学校だより等に掲載した結果、学校がいじめを許さない姿勢を具体的な指導として地域の方に示すことができ、更に信頼を深めた結果と言える。また、A17「学校は、『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている。」の評価項目についても85.7%から100.0%に上昇した。これは、あいさつ運動や運動会のボランティア活動をはじめとして、中学校や地域と連携した広域的な教育活動を本校が展開していることが、地域の皆様に目に見える形で浸透したことを示している。同様に、評価項目 B2「児童は、毎日家庭学習に取り組んでいる。」や、B4「児童は、本を読むことが好きである。」についても、R6 の85.7%から R7 では100.0%へと改善しており、本校における学習に対する取組の様子が地域の皆様に認められ、評価が高まっている結果と言える。

一方で、評価項目 A2「児童生徒は、思いやりの心をもっている。」において、R6 では100.0%の評価であったが、R7 では88.9%へと約11ポイント低下した。今後は、行動や言葉遣いについて全教職員が共通理解を図り、指導の充実を図っていく。また、異学年交流の機会を意図的に設け、思いやりの心が現れた際に教職員が適宜認め励ます声掛けをしていくことで児童の自己肯定感を高めていく。その取組の様子を学校だよりや HP に取り上げ、地域住民にも積極的に伝えていけるようにしていく。

地域住民の皆様の評価は総じて極めて高く、多くの項目において2年連続で100.0%を維持している。これは、田原西小学校が地域社会と密接に連携し、子供たちが地域の一員として「誇り」をもって生活していることが、住民から全面的に支持されている証である。今後は、唯一低下が見られた A2 の評価項目の「地域における児童の思いやりの心」の実態を把握し、地域での見守り活動や交流を通じ、学校内での学びをいかに地域での行動に繋げていくか検討を行っていく。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

今後も保護者や地域と連携し、地域学校園での挨拶奨励の取組を継続し、児童が自ら進んで挨拶できるよう年間を通して学校全体で呼び掛けていく。また、地域の方との交流を活性化し、様々な体験活動を通じて思いやる心を育てていく。さらに、家庭や地域住民との連携協働による体験的活動の機会を設け、発掘した地域の人材や教育力をボランティアとして有効に活用していくことにより、児童同士が生き生きと学び合える活気ある学校づくりを推進する。学習面においては、反復学習の奨励や家庭学習強化週間の実施等基礎基本の確実な習得に向けた取組の推進とともに、積極的に ICT 機器を活用し、児童が互いに考えを交流し深める展開の工夫など、主体的・対話的で深い学びにつながるような授業改善に努めていきたい。今後も引き続き、全ての教育活動に、児童スローガンである「育もう！田西っ子プライド『思いやる心・気づく心・頑張りぬく心』」を位置付け、児童が3つの心を磨き、自尊感情を高めていくための取組を児童育成の基盤としていく。